

# チェコ

# Czech Republic

	2009年	2010年	2011年
①人口:1,050万人(2011年)			
②面積:7万8,865k m <sup>2</sup>			
③1人当たりGDP:2万444米ドル (2011年)			
④実質GDP成長率(%)	△4.7	2.7	1.7
⑤消費者物価上昇率(%)	1.0	1.5	1.9
⑥失業率(%)	6.7	7.3	6.7
⑦貿易収支(100万ユーロ)	3,298	2,091	3,826
⑧経常収支(100万ユーロ)	△3,429	△5,897	△4,454
⑨外貨準備高(100万米ドル、 期末値)	41,157	41,909	39,670
⑩対外債務残高(グロス)(100 万ユーロ、期末値)	13,933	18,535	18,374
⑪為替レート(1米ドルにつき、 コルナ、期中平均)	19.0630	19.0983	17.6959

【注】①:推計値, ⑦⑧:国際収支ベース, ⑦:財のみ, 2011年の実質GDP成長率は暫定値

【出所】①②④~⑥:チェコ統計局, ③⑨⑩:IMF, ⑦⑧⑪:チェコ国立銀行

2011年のチェコ経済は、内需の低迷により実質GDP成長率は、前年の2.7%から1.7%に減速した。貿易は、最大の相手国ドイツ向けの輸出が過去最大となるなど好調で、貿易黒字が急拡大した。対内直接投資は、前年より減少したが、過去2年、引き揚げ超過だった製造業の直接投資が3年ぶりに流入に転じた。対日貿易は輸出が前年比3.2%増、輸入が4.0%減となり、貿易赤字は縮小した。

## ■ 内需低迷で成長鈍化

2011年のチェコの実質GDP成長率は1.7%と前年の2.7%から減速した。欧州債務危機の影響により、輸出入ともに前年に比べて伸びは鈍化したものの、外需が経済を牽引した(寄与度2.6ポイント)。厳しい財政状況を反映し、政府消費支出は1.4%減、総固定資本形成も1.2%減となった。また、景気の先行き不安から個人消費も0.5%減となり、内需は総じて低迷した。

チェコ財務省は、2012年の実質GDP成長率を、内需の低迷に加えて外需の落ち込みも加わり、0.2%(2012年4月発表時点)と予測している。

2011年の失業率は6.7%で、2010年(7.3%)からは若干の改善がみられた。2012年は経済の減速に伴い失業率は7.0%に上昇するとみられている。消費者物価上昇率は2009年(1.0%)、2010年(1.5%)、2011年(1.9%)と徐々に上がりつつあるが、上昇スピードは抑えられた。しかし、チェコ財務省は、2012年1月からの付加価値税の軽減税率引き上げの影響により、2012年の消費者物価

上昇率は3.3%まで上昇するとしている。

## ■ 好調なドイツ経済に支えられ、貿易黒字拡大

2011年の貿易は、輸出が前年比16.3%増の1,166億9,400万ユーロ、輸入が14.0%増の1,089億2,200万ユーロと、ともに大幅に増加した。貿易黒字は、62.7%増の77億7,200万ユーロとなった。

輸出を品目別にみると、全体の54.5%を占めた機械類・輸送用機器が、前年比16.2%増となった。そのうち最大の輸出品目は自動車(構成比9.5%)で、地場メーカーのシュコダオート(フォルクスワーゲン・グループ)や現代自動車の乗用車生産拠点がドイツや新興国での需要拡大に伴う増産を行い、17.8%増となった。ほかにも、自動車部品(6.6%)が13.5%増、通信機器(2.9%)が37.4%増と大きく増加した。自動車部品は、最大の輸出先であるドイツ(自動車部品の輸出総額の43.4%)が11.2%増と大きく伸びたことが要因である。

輸出を国・地域別にみると、EU27向けが全体の83.0%

を占めており、前年比15.0%増と大幅に伸びた。中でも最大の輸出相手国であるドイツ向け(構成比32.1%)が15.6%増と好調であった。自動車部品のほか、自動車(18.2%増)、データ処理機器(20.6%増)、金属機器(23.2%増)が大きく伸びた。EU27以外で

表1 チェコGDP統計

	2009年	2010年	2011年 (暫定)	2011年(暫定)				2012年 (予測)
				Q1	Q2	Q3	Q4	Q1
実質GDP成長率	△4.7	2.7	1.7	3.1	2.1	1.3	0.3	△0.7
個人消費	△0.4	0.6	△0.5	△0.2	△0.4	△0.6	△0.7	△2.9
政府消費支出	3.8	0.6	△1.4	△0.1	△1.1	△2.5	△1.7	△0.2
総固定資本形成	△11.5	0.1	△1.2	△2.1	1.4	△2.1	△1.7	1.0
輸出(財・サービス)	△10.0	16.4	11.0	19.2	12.9	8.5	4.4	6.5
輸入(財・サービス)	△11.6	16.0	7.5	16.9	10.0	3.5	1.4	3.9

【注】四半期の伸び率は前年同期比。

【出所】チェコ財務省「チェコ・マクロ経済見通し」(2012年4月発表)。

表2 チェコの品目別輸出入

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2010年		2011年		2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
機械類・輸送用機器	54,750	63,617	54.5	16.2	41,463	45,610	41.9	10.0
原料別製品	17,241	20,638	17.7	19.7	17,044	19,754	18.1	15.9
雑製品	11,116	12,646	10.8	13.8	9,804	10,708	9.8	9.2
化学製品	6,502	7,341	6.3	12.9	10,190	11,897	10.9	16.8
鉱物性燃料	3,720	4,384	3.8	17.8	9,163	11,559	10.6	26.1
食料品・生きた動物	3,021	3,728	3.2	23.4	4,456	4,990	4.6	12.0
食料に適さない原材料	3,006	3,297	2.8	9.7	2,561	3,286	3.0	28.3
飲料・たばこ	664	701	0.6	5.6	570	661	0.6	16.0
動植物性油脂	182	197	0.2	8.2	161	238	0.2	47.8
合計(その他含む)	100,320	116,694	100.0	16.3	95,544	108,922	100.0	14.0

[注] 表3とも、EU域外貿易は通関ベース、EU域内貿易は各企業のインボイス報告などに基づく。

[出所] 表3、6ともにチェコ統計局。

は、ロシア向け(3.2%)が40.6%増と大幅に増加した。ロシア向けでは最大品目の自動車(3.8倍増と急増し、これに続くデータ処理機器も15.6%増となった。アジア大洋州は、地域全体で構成比は3.2%にすぎないが、中国(1.0%)が前年比30.6%増、韓国(0.3%)57.6%増、シンガポール(0.1%)58.5%増、インドネシア(0.1%)39.1%増と大幅な増加を記録し、輸出先として存在感を増している。

輸入を品目別にみると、最大品目の機械類・輸送用機器(構成比41.9%)が前年比10.0%増となった。このうち自動データ処理機器(4.8%)は、中国からの輸入が1.5倍となったことにより23.3%増、自動車部品(4.6%)は韓国およびドイツからの輸入増に伴い16.1%増、通信機器(4.3%)は8.0%増となった。特に、韓国からの自動車部品の輸入については、現代自動車(韓国)がノショヴィツェ工場で量産を開始した2008年以降、ギアボックスなどを中心に急増、2011年も前年比71.9%増を記録した。原料別製品(18.1%)は、15.9%増加した。鉄・鉄鋼(21.5%増)や金属製品(16.9%増)の増加が大きかった。

輸入を国・地域別にみると、全体の25.6%を占めるドイツからが前年比14.6%増となった。ドイツからの最大の輸入品目である自動車部品が8.7%増加したことで、輸入品目2位のスイッチなどの電気機器が23.6%増となったことが主な要因である。また、ドイツに次ぐ輸入相手国である中国(12.5%)からの輸入は、自動データ処理機器や通信機器の増加により15.7%増となった。

2012年1~3月の貿易は、輸出・輸入ともにそれぞれ前年同期比8.3%増、3.2%増と増加しているものの、欧州債務危機の影響により伸びに鈍化がみられる。

### ■ 対内直接投資はサービス・IT・インフラ関連に集中

2011年の対内直接投資総額(国際収支ベース、ネット、フロー)は38億9,000万ユーロで、2010年の46億3,700

万ユーロから16.1%減となった。

業種別にみると、電力・ガス供給(13億5,300万ユーロ)分野への投資が大きかった。一方、金融・保険と商業・自動車

修理業は大幅に減少し、鉱業や自動車製造業は引き揚げ超過になった。製造業全体では、金属製品や機械・機器の伸びで3年ぶりに流入超過に転じた。また、情報・通信(IT)分野への投資(3億ユーロ)は、前年に続き堅調に推移した。チェコ投資・ビジネス開発庁の報告によると、同庁経由で2011年にチェコに投資を行った企業233社のうち、97社がITとソフトウェア開発分野であった。

国・地域別でみるとEU27が29億5,900万ユーロで最大だった。オーストリアやオランダからの投資は減少したが、ドイツからの投資が大きく増加し、チェコに対する最大の投資国となった。EU27以外からの投資も増えており、特に韓国からの投資は2009年が600万ユーロ、2010年が1億4,600万ユーロ、2011年は2億3,800万ユーロと、近年増加が著しい。

2011年に発表された主な投資案件は自動車、医薬品、玩具など多岐にわたった。現代自動車は2011年2月、年間30万台への生産拡大を目指し、ノショヴィツェにある工場への1億3,000万ユーロの追加投資を発表した。イスラエル資本のテバ・チェコインダストリーは14億コルナを投資して米国向け錠剤工場を2010年9月に稼働させているが、2011年にさらに5億コルナを投資し生産拡大を図った。2011年3月、ブロック玩具大手のレゴ(デンマーク)は、16億コルナを投資してクラドノ工場を増強、25%の生産拡大を図ることを発表した。この工場増強により新たに200人を雇用し、主として欧州市場向けに輸出を行う。自動車部品のロバート・ボッシュ(ドイツ)は、自動車用ポンプと燃料システムの増産を目的にチェスケー・ブデヨヴィツェ工場の拡張を発表した。今回の工場拡張投資は3億コルナで約400人の新規雇用を予定している。

2011年の対外直接投資は、前年比5.9%減の8億2,900万ユーロとなった。

業種別でみると、前年に続きエネルギー分野への投資がみられた。2011年12月、チェコ電力大手CEZ傘下でオランダに登録されている完全子会社のCEZポーランド・

表3 チェコの主要国・地域別輸出入

(単位:100万ユーロ,%)

	輸出(FOB)				輸入(CIF)			
	2010年		2011年		2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率
EU27	84,212	96,816	83.0	15.0	60,529	69,463	63.8	14.8
ユーロ圏	66,471	76,593	65.6	15.2	48,072	55,085	50.6	14.6
ドイツ	32,457	37,511	32.1	15.6	24,316	27,877	25.6	14.6
スロバキア	8,612	10,442	8.9	21.2	4,992	6,189	5.7	24.0
フランス	5,346	6,366	5.5	19.1	3,158	3,527	3.2	11.7
オーストリア	4,741	5,375	4.6	13.4	3,218	3,633	3.3	12.9
イタリア	4,436	4,830	4.1	8.9	3,731	4,228	3.9	13.3
オランダ	3,695	4,081	3.5	10.4	3,080	3,554	3.3	15.4
非ユーロ圏	17,741	20,223	17.3	14.0	12,457	14,378	13.2	15.4
ポーランド	6,129	7,315	6.3	19.4	6,109	7,147	6.6	17.0
英国	4,947	5,281	4.5	6.8	1,948	2,057	1.9	5.6
ルーマニア	1,134	1,287	1.1	13.5	595	802	0.7	34.8
CIS	3,992	5,526	4.7	38.4	7,309	8,674	8.0	18.7
ロシア	2,673	3,759	3.2	40.6	5,149	5,817	5.3	13.0
アジア大洋州	3,086	3,752	3.2	21.6	20,539	22,549	20.7	9.8
中国(香港除く)	918	1,199	1.0	30.6	11,741	13,586	12.5	15.7
インド	597	614	0.5	2.8	434	469	0.4	8.1
日本	401	414	0.4	3.2	2,323	2,231	2.0	△ 4.0
ASEAN	391	468	0.4	19.7	3,306	3,265	3.0	△ 1.2
シンガポール	82	130	0.1	58.5	799	658	0.6	△ 17.6
タイ	82	97	0.1	18.3	1,200	969	0.9	△ 19.3
マレーシア	72	77	0.1	6.9	711	908	0.8	27.7
インドネシア	46	64	0.1	39.1	244	277	0.3	13.5
韓国	203	320	0.3	57.6	1,605	1,939	1.8	20.8
北米(NAFTA)	2,084	2,704	2.3	29.8	2,483	2,558	2.3	3.0
米国	1,753	2,270	1.9	29.5	2,133	2,127	2.0	△ 0.3
中東	1,427	1,425	1.2	△ 0.1	321	385	0.4	19.9
中南米	567	629	0.5	10.9	471	590	0.5	25.3
ブラジル	293	315	0.3	7.5	193	254	0.2	31.6
合計(その他含む)	100,320	116,694	100.0	16.3	95,544	108,922	100.0	14.0

[注] アジア大洋州は ASEAN+6(日本、中国、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、インド)に香港および台湾を加えた合計値。

NAFTA は、米国、カナダ、メキシコの3カ国の合計値。このため、中南米にメキシコは含まない。

各表とも各項目の原データの計算値と表示データの計算値が不一致なのは四捨五入処理のため。

ディストリビューションは、ポーランドの風力発電会社エコウインド・コンストラクションの株式 67%を取得(金額未公表)した。なお、CEZ については、CEZ のルーマニア完全子会社の CEZ ルーマニアも、2011 年 6 月、同国の水力発電会社 TMK ハイドロエナジー・パワー・システムの株式 100%の取得が終了したと発表した(買収金額 1,980 万ユーロ)。

国・地域別にみると、EU27 向けが 29.4%減の 5 億 9,100 万ユーロとなった。国別で最大の投資先であったオランダ向けが 75.1%減の 2 億 1,700 万ユーロとなったことなどによる。金額は少ないが、新興国向け投資もみられた。主な投資案件としては、2011 年 8 月、チェコのベアリングメーカー ZKL が、インドのコルカタ郊外に鉄道車両用ベアリング工場を設立すると発表した事例がある。インドでは、チェコ企業が積極的な企業活動を展開しており、チェコ産業貿易省は「2011 年チェコ輸出対象優先国」12カ国の一つに指定している。

### ■対日貿易赤字は縮小

2011 年の対日貿易は、輸出が前年比 3.2%増の 4 億

1,400 万ユーロ、輸入が 4.0%減の 22 億 3,100 万ユーロで、貿易赤字は 18 億 1,700 万ユーロとなり、2010 年の 19 億 2,200 万ユーロから縮小した。

チェコの輸出全体に占める日本の構成比は、0.4%で前年と同水準であった。対日輸出では、最大品目の機械類・輸送用機器が(構成比 46.3%)が前年比 1.7%減となった。同品目の 33.0%を占める一般機械が 12.3%減、9.4%を占める自動車は 34.3%減と大きく落ち込んだことなどによる。雑製品(19.4%)は 15.6%増で、同品目の半分を占める玩具・ゲーム・スポーツ用品も 21.9%増となった。玩具・ゲーム・スポーツ用品の占める割合が高いのは、ブロック玩具最大手レゴがチェコに生産拠点を構えているためである。また、雑製品の 16.9%を構成する光学機器が 2.4 倍と大きな伸びを示した。

このほか、食用に適さない原材料(11.5%)が 82.1%増と大きく増加した。これは同品目の 45.7%を占める金属鉱石・金属くずが 17.3 倍増と急増したことによる。一方、食料品・生きた動物(3.6%)は 31.3%減と大きく減少した。このうちホップ(麦芽)は、31.6%減となった。これは、日本のビール需要減退によるものと思われる。2011 年のチェ

表4 チェコの業種別対内・対外直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位:100万ユーロ)

	対内直接投資		対外直接投資	
	2010年	2011年	2010年	2011年
	金額	金額	金額	金額
電力・ガス供給	139	1,353	286	△ 67
金融・保険	1,212	861	43	48
商業・自動車修理業	1,409	725	38	—
建設	119	411	33	32
製造業	△ 354	368	57	272
金属製品	△ 152	172	△ 12	23
機械・機器	△ 123	165	19	7
石油・化学・医薬品・ゴム・プラスチック	235	153	1	62
輸送機器(自動車除く)	134	60	—	1
食品・飲料・たばこ	△ 528	33	32	61
木材・製紙	85	33	△ 9	4
繊維・アパレル	45	7	△ 5	△ 7
自動車	△ 134	△ 281	—	164
情報・通信	509	300	37	6
水供給	30	40	—	0
専門、科学、技術	△ 184	4	322	391
不動産	680	△ 1	37	67
鉱業	167	△ 138	23	△ 6
合計(その他含む)	4,637	3,890	881	829

〔注〕2011年は推定値。  
〔出所〕表5とともにチェコ国立銀行。

コ産ホップの最大の輸出相手先国は日本(1,216万ユーロ)で、2位のドイツ(609万ユーロ)を依然、大幅に上回った。

対日輸入はチェコの輸入全体の2.0%を占め、前年の2.4%より減少した。最大の輸入品目である機械類・輸送用機器(構成比68.9%)は、前年比6.0%減であった。これは事務機械(16.8%)が14.5%減、陰極バルブ・チューブ・集積回路(14.3%)が27.1%減、通信機器(8.6%)が26.8%減とそれぞれ大幅に減少したことによる。

### ■ 日系企業による投資は追加投資中心に

ジェトロ・プラハ事務所の調査によると、チェコに進出している日系企業は263社(2011年12月末時点)で、そのうち製造業は98社となっている。しかし、賃金上昇と労働力不足などの事情もあり、日本からチェコへの直接投資

表5 チェコの国・地域別対内・対外直接投資  
＜国際収支ベース、ネット、フロー＞

(単位:100万ユーロ)

	対内直接投資		対外直接投資	
	2010年	2011年	2010年	2011年
	金額	金額	金額	金額
EU27	4,687	2,959	837	591
ユーロ圏	2,969	2,283	1,008	529
ドイツ	1,053	1,799	24	164
スロバキア	522	815	152	152
オーストリア	1,395	662	9	8
オランダ	1,499	466	873	217
非ユーロ圏	1,718	676	△ 171	62
英国	1,264	392	△ 18	3
ポーランド	203	146	32	21
韓国	146	238	—	—
北米(NAFTA)	242	204	△ 7	11
米国	278	200	4	9
中南米	0	66	—	2
ブラジル	—	△ 18	1	2
ロシア	24	41	△ 14	74
インド	1	27	7	89
トルコ	0	5	32	△ 23
中国(香港を除く)	9	△ 11	4	△ 10
日本	18	△ 66	—	0
合計(その他含む)	4,637	3,890	881	829

〔注〕2011年は推定値。  
NAFTAは、米国、カナダ、メキシコの3カ国の合計値。このため、中南米にメキシコは含まず。  
各表とも各項目の原データの計算値と表示データの計算値が不一致なのは四捨五入のため。

(国際収支ベース、ネット)は、2010年に続き引き揚げ超過となった(6,553万ユーロ)。

製造業関連の投資では、既存工場への追加投資が目立った。2011年1月に京セラが太陽電池モジュールの生産能力を拡張するため、京セラソーラーヨーロッパ・チェコの敷地内に新工場を建設した。また、豊田合成は高まる需要に対応するため、自動車用シーリング部品を生産している豊田合成チェコの第3工場を拡張した。新規投資では、汚泥処理関連装置の製造・販売を行うアムコンが欧州における製造・販売拠点としてアムコン・ヨーロッパを2011年4月に設立した。日系企業の対チェコ投資は、2011年から追加投資案件が中心となっており、この傾向は今後も続くものと思われる。

表6 チェコの対日主要品目別輸出入＜通関ベース＞

(単位:1,000ユーロ、%)

	輸出(FOB)					輸入(CIF)			
	2010年		2011年			2010年		2011年	
	金額	金額	構成比	伸び率		金額	金額	構成比	伸び率
機械類・輸送用機器	195,141	191,814	46.3	△ 1.7	機械類・輸送用機器	1,634,779	1,536,298	68.9	△ 6.0
雑製品	69,441	80,267	19.4	15.6	雑製品	340,267	296,637	13.3	△ 12.8
化学製品	59,505	52,035	12.6	△ 12.6	原料別製品	236,170	277,079	12.4	17.3
食用に適さない原材料	26,160	47,647	11.5	82.1	化学製品	87,535	96,045	4.3	9.7
原料別製品	29,040	27,288	6.6	△ 6.0	食用に適さない原材料	21,320	21,969	1.0	3.0
食料品・生きた動物	21,530	14,781	3.6	△ 31.3	鉱物性燃料	1,369	1,259	0.1	△ 8.0
鉱物性燃料	125	324	0.1	159.2	食料品・生きた動物	1,079	1,229	0.1	13.9
飲料・たばこ	199	255	0.1	28.1	特殊取扱品	456	489	0.0	7.2
特殊取扱品	—	81	0.0	0.0	飲料・たばこ	72	41	0.0	△ 43.1
合計(その他含む)	401,141	414,492	100.0	3.2	合計(その他含む)	2,323,047	2,231,066	100.0	△ 4.0